

1. 科目名 (単位数)	障害児保育 (2単位)	3. 科目番号	JNCS2106
2. 授業担当教員	酒井 博美		
4. 授業形態	講義、DVD視聴、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	共生社会の形成に向けて「統合保育」が一般的になりつつあり、公立保育所には障害のある子どもや気になる子ども、特別なニーズのある子どもがいて当たり前前の状況である。一方、分離した場での専門的な「療育」の対象は、乳幼児に限らず学齢期や成人までを含み、病棟や施設、専門療育機関において保育士が活躍している。本科目では、「統合保育」を中心に、「療育」についても触れながら、障害に関する法令や制度、医療、福祉、発達や障害についての基礎知識を学ぶとともに、保護者を支えながら障害のある子どもの生涯を見通した支援ができる保育士としての姿勢・態度・実践的能力を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>障害のある子どもや気になる子ども、その家族を支援するための理念を基盤に、統合保育や療育の場で実践的なかわりができるようになる。</p> <p>① 障害のある子におけるさまざまな考え方や技法・形態を知る。</p> <p>② 障害のある子が育つ過程での医療・福祉・教育の制度や役割を知る。</p> <p>③ 家族の生活や心情を思いやり、共感することができるようになる。</p> <p>④ 発達の具体的様相や順序性がわかり、障害のある子どもの支援に生かすことができるようになる。</p> <p>⑤ 統合保育や療育の場における連携・協力における留意点がわかって実践的な配慮ができるようになる。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の授業開始時に、事後学習として示した内容について発表してもらう。また第8回と第15回の授業では、これまでの学習内容の習熟度を確認するためのまとめと小レポートを実施する。各回の講義内容の理解を定着させるように、毎回の復習を確実にを行うこと。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】小川英彦編著『基礎から学ぶ障害児保育』ミネルヴァ書房、2017年</p> <p>【参考書】星山麻木著『障害児保育ワークブック第2版』萌文書林、2017年、日本神経学会監修『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』医学書院、2014年</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1 グループワークにおけるレポート課題の書き方に関する基礎的・基本的事項を理解し説明できるか。</p> <p>2 分かりやすい表現方法や具体的かつ論理的な文章作成力が身に付いたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1 まとめテストを実施する。レジュメの事前・事後学習を行ってください。 50%</p> <p>2 障害児保育の課題および方法についてのグループワーク・発表を行います。 30%</p> <p>3 レポートを実施します。 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	授業で得た知見について、自身の経験および今後自身が対象とする人々、また現代社会の特徴とも関連づけられる視点を獲得するために、討論やグループワークの機会も設けるので、積極的に取り組むこと。		
13. オフィスアワー	授業内に周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション。障害児保育とは。	事前学習	シラバスを読んでおく
		事後学習	今後の学習内容を理解しておく
第2回	障害児保育の歴史と現状	事前学習	教科書 pp. 15-31 を読んでおく
		事後学習	自分の住んでいる自治体の保育所、幼稚園、専門機関で発達障害に対してどのような支援が行われているのか調べておく
第3回	障害とは何か	事前学習	教科書 pp. 35-50 を読んでおく
		事後学習	もっとも関心のある障害1つを取り上げ調べておく
第4回	障害児保育にかかわる法律や制度	事前学習	教科書 pp. 53-71 を読んでおく
		事後学習	発達障害者支援法について説明できるようにしておく
第5回	発達の理解 (1) 発達を支える基盤	事前学習	教科書 pp. 73-80 および p. 100 を読んでおく
		事後学習	発達に影響する要因について説明できるようにしておく
第6回	発達の理解 (2) 発達の過程	事前学習	教科書 pp. 80-88 を読んでおく
		事後学習	EH エリクソンの発達段階説を説明できるようにしておく
第7回	保育所・幼稚園等の子どもに多くみられる障害と保育 (1) 発達障害: 発達障害とは、自閉症スペクトラム障害	事前学習	教科書 pp. 37-38 を読んでおく
		事後学習	知的障害、自閉症スペクトラム障害の主な特徴について説明できるようにし、それに応じた保育現場での活動の一つを考えておく
第8回	保育所・幼稚園等の子どもに多くみられる障害と保育 (2) 発達障害: 注意欠如多動性障害 (ADHD)、限局性学習障害 (SLD)	事前学習	教科書 pp. 38-40 を読んでおく
		事後学習	注意欠如多動性障害、限局性学習障害の主な特徴について説明できるようにし、それに応じた保育現場での活動の一つを考えておく
第9回	保育所・幼稚園等の子どもに多くみられる障害と保育 (3) 知的障害: 知的障害とは、ダウン症	事前学習	教科書 pp. 36-37 を読んでおく
		事後学習	知的障害、ダウン症の主な特徴について説明できるようにし、それに応じた保育現場での活動の一つを考えておく

第10回	保育所・幼稚園等の子どもに多くみられる障害と保育 (4) 脳性まひ、肢体不自由児	事前学習	教科書 p. 36 を読んでおく
		事後学習	脳性まひ、肢体不自由児の主な特徴について説明できるようにし、それに応じた保育現場での活動の一つを考えておく
第11回	保育の中での個別支援、療育機関との連携	事前学習	教科書 pp. 125-142 を読んでおく
		事後学習	個別指導と集団指導の有効性をそれぞれ説明できるようにしておく
第12回	幼保小・地域との連携	事前学習	教科書 pp. 191-201 を読んでおく
		事後学習	自分の住んでいる地域の幼保小・地域連携に関係があると思われる社会資源の一つ探し、支援内容を調べておく
第13回	保護者支援(1) 障害の受容	事前学習	教科書 pp. 163-181 を読んでおく
		事後学習	障害受容のプロセスについて説明できるようにしておく
第14回	保護者支援(2) 支援の具体的方法	事前学習	障害児をもつ保護者とのかかわりに必要と思われるかかわりのポイントを3つ挙げておく
		事後学習	身につけた各技法を日常生活のコミュニケーションで必ず1回は使用しておく
第15回	まとめテスト	事前学習	第1～14回の授業内容を総復習し、各内容について説明ができるようにしておく
		事後学習	まとめテストをもとに、これまでの内容理解の定着を図る